



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1105号)

平成23年8月26日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ハタハタ・アカガレイ・エチゼンクラゲに関する情報について (平成23年度底びき漁期前調査結果)

平成23年8月10・11日および8月17～20日に島根県日御碕沖～但馬沖の水深180～350m(図1、表1)で、漁業調査船「たじま」により、トロール網試験操業を実施しました。結果の概要は以下の通りです。

① ハタハタ(秋漁)に関する情報

- ・ハタハタは隠岐東方と隠岐北方漁場においてまとまった入網がありました(表1、図2)。
- ・1網当たり入網重量(全体)は前年を上回り、過去6カ年の平均的な水準を上回っていると考えられます(表2、図3)。また、すべての海域で前年の入網量を上回りました(図3)。
- ・漁獲物は1才魚(体長13cm前後)主体で、次いで3歳魚(同19cm前後)が混ざり、2歳魚(同16cm前後)は少なくなっています。大型個体(2、3歳魚)は隠岐北方・東方では水深240m以深、日御碕沖から隠岐西方(中江沖)では水深210m以浅で比較的多く混ざりました(図4、付図)。
- ・1歳魚の平均体長は13cm前後で、近年ではやや小型となっています(図5)。
- ・以上のことから、解禁直後の漁獲量は近年の平均並かそれをやや上回ると見られます。漁場については隠岐東方を中心に形成されると見られます。近年漁獲が低調だった隠岐島以西でも、漁獲が上向く可能性があります。漁獲物サイズは小型と大型と2極分化するとみられます。

② アカガレイ(秋漁)に関する情報

- ・アカガレイの漁獲は但馬沖の水深210m以深で、270mを中心にまとまった入網が見られました(表1、図6)。
- ・隠岐島以東では入網量は前年をわずかに上回りましたが、以西では皆無に近くなっています。
- ・以上のことから漁期始めは但馬沖を中心に漁場が形成され、秋漁については前年並みの漁獲が期待できます。
- ・永らく漁獲を支えてきた2001年級(現在の大型個体の主体)の資源量はそろそろ減少に転じると考えられています。体長20cm未満の小型魚が多く分布する水深200-220m付近(図7)での操業は、吊り岩を用いるなどによりこれらの保護に努めて下さい。

③ エチゼンクラゲに関する情報

- ・今回の全調査点において、エチゼンクラゲの入網は認められませんでした。
- ・8/25現在、数は多くありませんが対馬海峡東水道で出現が確認されています。
- ・大型クラゲ出現情報(JAFIC) (<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>) や出現予測(水研センター) (<http://www.fra.affrc.go.jp/kurage/frayosoku21.html>) が公開されています。引き続き最新の情報収集に努めて下さい。

以上、操業の参考にして頂ければ幸いです。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター (担当：大谷)

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ： <http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm>